

文化庁 平成 27 年度「被災地における方言の活性化支援事業」

この事業は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災において、被災や避難に伴い消滅の危機にあると考えられる被災地域の方言について、「東日本大震災からの復興の基本方針」(平成23年7月29日)において「『地域のたから』である文化財や歴史資料の修理・修復を進めるとともに、伝統行事や方言の再興等を支援する。」と明記されていることを受けて、被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地域の方言の再興及び地域コミュニティの再生に寄与することを目的として実施される。

弘前学院大学では、平成 24 年(2012)年度から本研究事業を受託し、今年度も以下の事業が採択された。

1 研究 課 題

「発信！ 方言の魅力 かだるびゃ・かだるべし青森県の方言」

2 研究目的及び内容

東日本大震災被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地の方言の再興及び地域コミュニティの再生に寄与することを目的とした「被災地における方言の活性化支援事業」の一環として実施する。

平成 25 年度および 26 年度には、津軽と南部の両方言からなる青森方言の魅力や価値を、若年層・高年層のそれぞれの立場で発見し、また、地域の文化として自信と誇りを持って今後継承していける各種事業を実施し、好評を博した。また、直接の被災地南部地域だけでなく、津軽でも弘前市や小学校の協力により、昔コの上演による青森県の二大方言の聞き比べにより、避難者のみなさんを元気付ける企画を提供することができた。

こうした過程で、同じ県内のことばであっても、津軽弁と南部弁の両方を聴く機会はなく、お互いにどんなことばなのかよくわからないので解説をしてほしいとか、もっと方言を身近に感じてもらえるようにしてほしいという要望などが寄せられた。さらに、岩手県の南部弁はどこまで続いているのだろうか、南部弁の中での違いはどうなっているのか知りたいというような、具体的な質問も寄せられ、南部弁・津軽弁ともに方言への関心が高まった。そこで、八戸市での事業において、「学問の力」を最大限に発揮して地域に社会還元する企画として、学生による「方言ミニ講座」を実施するなど、より方言をわかりやすく解説し、方言への理解や誇りを持ってもらうことを進める試みを行った。

今年度は、さらに被災地地域住民の声に直接応え、南部弁を中心として、方言を身近に感じ生活語としての活力を感じる企画や、文化としての方言を継承するための教育資源に加工するための企画、県外からの避難者を方言によって勇気付け・元気付ける企画を実施する。さらに、各地で方言の読み聞かせや語りなどを通して、方言の継承活動をし

ている団体等に関する全県調査を実施し、地域が縦にも横にもつながって活性化できるようにする。

また、この事業に参加した学生たちも、地域住民のみなさんと活動することで地域理解や文化継承への興味関心が高まり、地域の人材育成・世代を越えた交流という効果ももたらしていることから、今年度も「学問の力」による地域貢献を目指した活動とすることを目指している。

具体的には、以下に示す3つの柱となる活動を通して、生活語としての南部弁や津軽弁の活力を感じる、文化としての方言を継承するための教育資源を開発する、地域の皆さんとの世代を超えた交流により地域や文化の理解を深めるなど、「学問の力」による地域貢献を目指した活動を行う。

(1) 各地の方言の読み聞かせ・語り部活動の実態把握とネットワーク作り

各地の教育委員会・図書館・公民館の団体等(県内 200 施設程度)に対して、方言を中心とした読み聞かせや語りの活動を行っている団体やサークルなどに関する情報についてアンケート調査を実施し、今後、県内の関係者の連絡会を組織することを目指し、データベース作りを呼びかける。

(2) 方言聞き比べ教室の開催・教材化

総合的学習や国語教育といった学校教育の中で方言学習を位置づける試みとして、弘前市およびその近郊の小学校・中学校・高校において、南部弁と津軽弁の聞き比べ教室を開催する。その際、教室の開催だけにとどめず、学校教育の中で位置づけられるように、学習指導要領研究・教材化を進める。

(3) 第三回「南部弁の日」南部弁さみっと in 八戸の開催

12月5日(土)(予定)八戸市ポータルミュージアム「はっち」にて、第三回「南部弁の日」南部弁さみっと in 八戸を開催する。一昨年度から立ち上げた「南部弁の日」を、今年度も開催する。被災地域の住民からの開催の要望が多く、「方言で被災者を勇気付け・元気付ける」企画として取り組む。

(4) 南部弁さみっと in 岩手(仮称)の開催

昨年度、「おらほ弁でかだっぺし」(事務局:岩手大学)と共催した「南部弁さみっと in 釜石」イベントのように、地域方言を使用する社会的場面を確実に次世代に残すため、方言が継承される培地として昔話等の口承的伝承を語る活動に継続して注目する。岩手で地域の昔話を語る団体(釜石市「漁火の会」等)の活動を支援するとともに、青森県の南部弁の語りの団体等との連携交流活動についても支援し、地域の言語文化活動の活性化を図

る。

3 研 究 期 間

平成27年7月～平成28年2月

4 研 究 機 関

学校法人弘前学院 弘前学院大学 研究責任者:文学部 今村かほる

5 依 頼 者

文化庁委託研究事業